◉關東平野の交通線路

文科四年　岩田文

交通とは人と物との一定の目的を以ての運動である、例へは相離れて居る土地の産物の交換も交通であれば又人の往來も交通である。民族の發育は交通の發育と相離る可からざるものであつて交通機關の發明改良は牛馬の類から汽車、汽船、電車等に至る迄一として民族の發育を證明すべきものでないものはない。而し如何に交通路や機關か進歩しても交通其ものは常に地學的條件に制限せられて居る。卽地面の貌、氣候、海流、風、距離等によつてゝある、此等ばかりは交通の變化するに係らず末長く變化しないものと見なければならぬ。此意味によれば此より述べんとする關東平野は割合に交通を妨げらるゝ條件が少いわけである。交通に於て必要なるものは交通機關及交通線路の二つてある。機關は人間の雙脚を初めとし牛、馬、駱駝、犬、馴鹿、筏、小舟、帆船、蒸氣船、荷車、人力車、馬車、汽車、電車、自働車、今出來つゝある飛行機等である。交通路は海、河、運河、湖、道路、鐵道これでる。

更に通交が地球表面の如何なる場所に行はるゝかに因つて此を陸上、水上、空中の三交通に區別する。空中のものは目下僅に成立しつゝあつて未だこれを完全の度に進める事は出來ない。陸上の交通は普通に何處でも行はれてゐるもので通路は道路鐵道等に機關は前述の人脚、犬馬等、動物によるもの人力車、汽車等の諸種の車等である。水上海、河、湖又は運河等を通路とし船を機關として居る。

今、關東平野に就いて交通機關はこれを措き交通線についてこれを述べることゝする、而し本平野についてゝあるから主として陸上の交通を陳べ水路の中の河、湖、運河を一寸附ける積りである。

關東平野は地圖の示すが如き曠漠たる大平野であつて其廣さは日本一に位して居る。山地よりも平野に文化が開けやすい。かつ本平野は日本の首都たる東京の所在地に當つて居るから猶更のことよく發達して都會の數多を含有し從つて交通線など最もよく發達して居る。

今道路について見るにこれを國道、縣道、里道の三に分ける。國道は各府縣の重要都府を連結し全國の頸脈、交通の幹線となつて居るもの明治十八年の政訂によつて巾七間以上となつて居るが實際は三間位のものが多い。縣道は各縣に接續し各師團から分營に達するもの、各府縣本廳から支廳に達するもの等であつて四間乃至五間と一定して居るが實際は二間位のものである。里道は各村里間を連るもので幅員にきまりはない。

本平野の國道は多く東京を中心として日本橋區日本橋から四方に出て居る。

一、東海道は日本橋から出て品川、大森、神奈川、藤澤、大磯、國府津、小田原を經由して箱根を

越えて關西の方に赴く。

一、甲州街道は日本橋から新宿、府中、八王子、猿橋等を經て甲府に達して居る。

一、中山道は日本橋から出て板橋、浦和、大宮、熊谷、高崎等を經由して碓氷峠にかゝつて居る。

一、奥州街道は日本橋から千住に出て越谷、粕壁、古河、小山、宇都宮等を通つて白河の關に

て居る。これに宇都宮から分れて日光に行くものを日光街道といふ。今迄說き來つた東海道、中

山道、甲州街道、奥羽街道と共に德川時代の五大街道といはれたものである。

一、濱街道は前と同樣日本橋から千住、松戸、我孫子、土浦、水戸を通つて常陸海岸から勿來の關

に行く。

一、千葉街道は日本橋から兩國に來て堅川通りを行き千葉町に達して居る。

この外前橋からは越後街道なるものが出て居るし更に沼田からは會津街道が分れて出る。縣道は澤

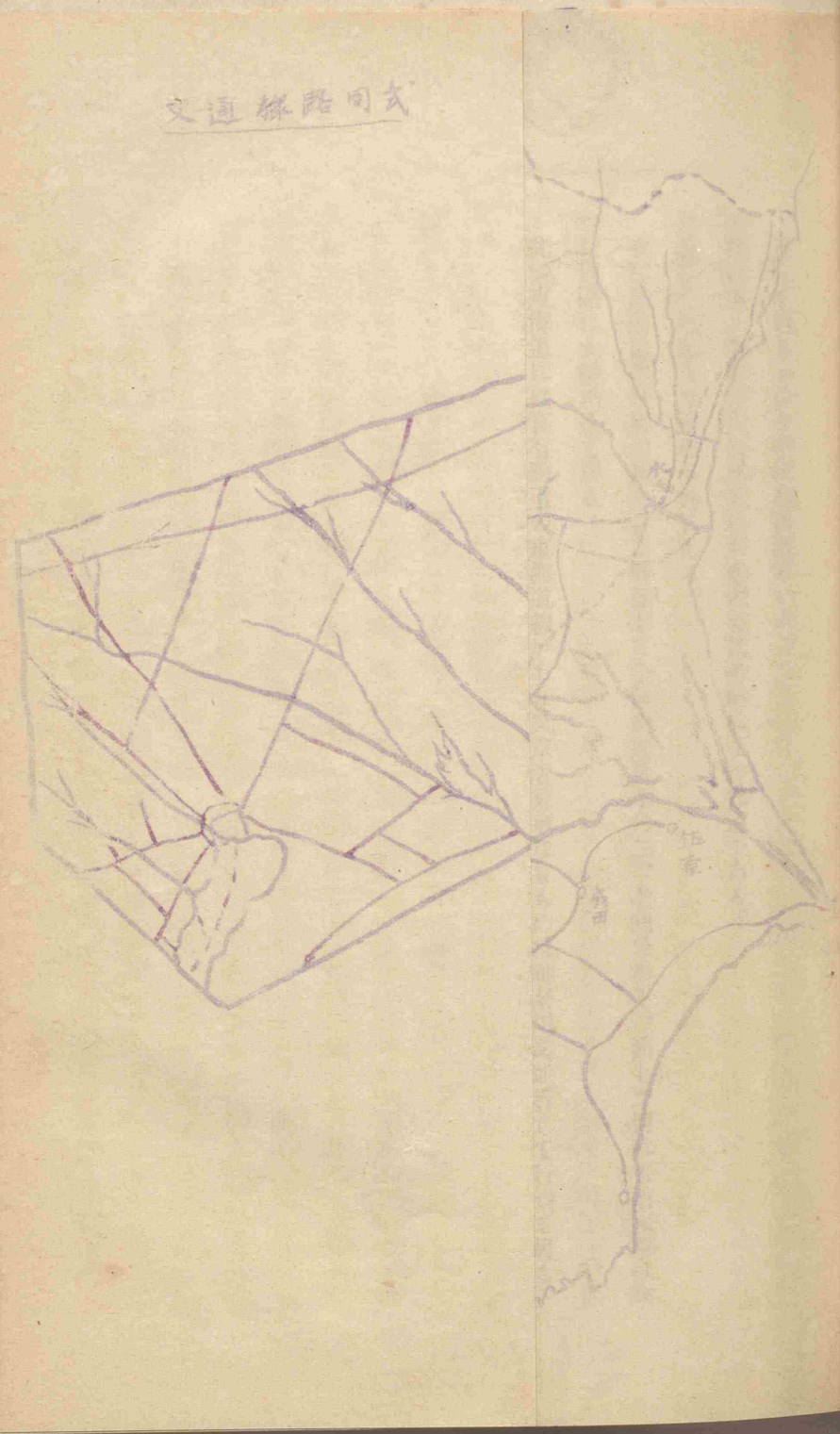
山で到底數へきれないから中樞なる東京に關係あるもののみを擧ぐれば

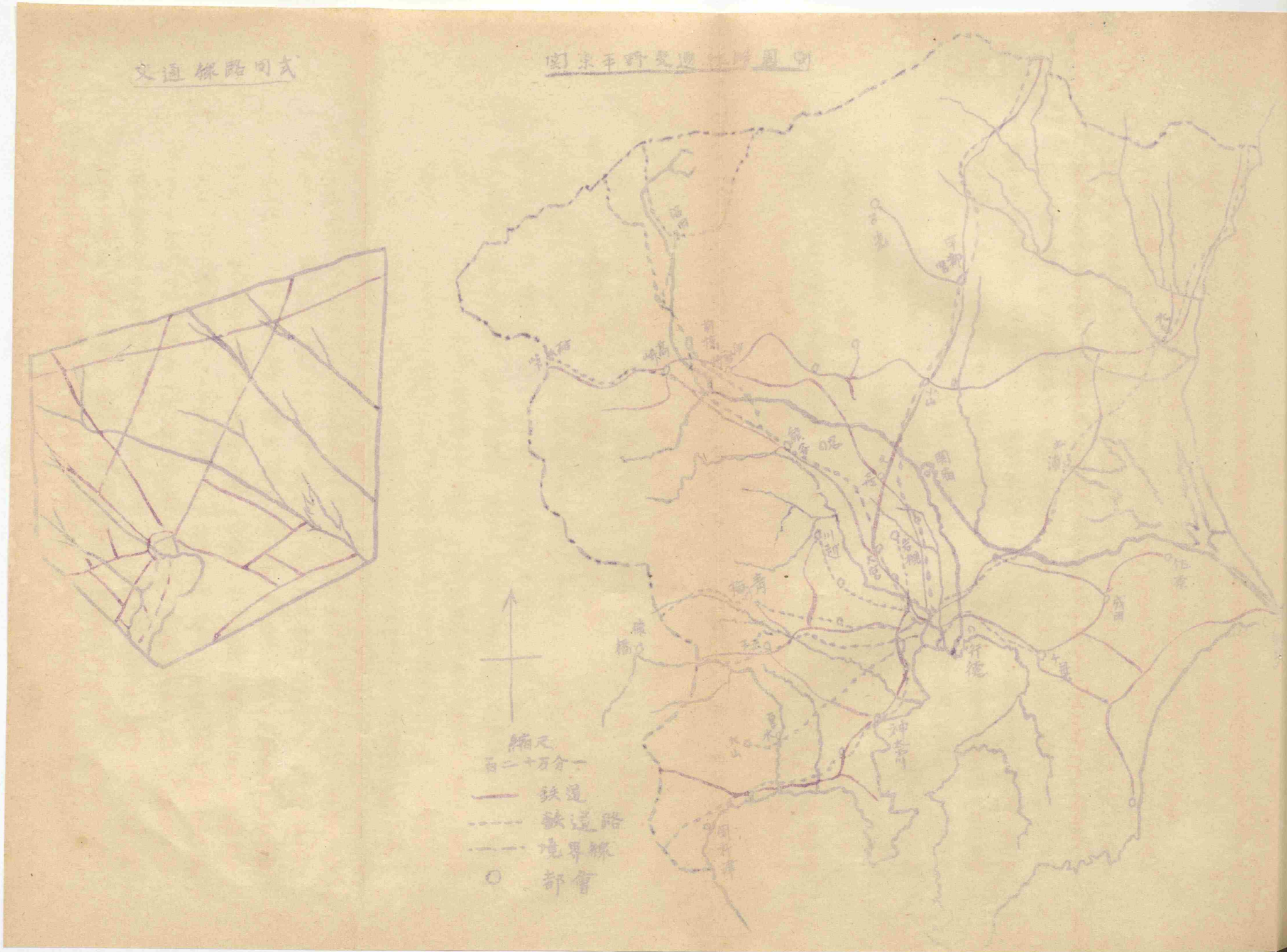
一、大山街道、やはり日本橋から澁谷に出て厚木を過ぎつて大山に達して居る。

一、岩槻街道、日本橋から上富士前町に出て赤羽、岩淵を經て岩槻に着く。

一、川越街道、赤羽から中山道に別れて大和田を過きて川越に達するもの。

一、青梅街道、新宿から田無などを通つて青梅に達して居るもの。こゝから又更に落合を經て甲府に





一、大山街道、やはり日本橋から澁谷に出て厚木（アツギ）を過ぎつて大山に達して居る。

一、岩槻街道、日本橋から上富士前町に出て赤羽、岩淵を經て岩槻に着く。

一、川越街道、赤羽から中山道に別れて大和田を過きて川越に達するもの。

一、青梅街道、新宿から田無（タナシ）などを通つて青梅に達して居るもの。こゝから又更に落合を經て甲府に

達して居るものを甲州裏街道といふ。

此等は多く德川時代に諸大名が參覲交代の時によつた道である。

里道は今迄述へたもの丶外にある。

次に鐵道は本平野に最もよく發達して全体の延長九〇二、七哩である、而して何れも前來擧げ來つた道路に大體沿うて居る。

先つ東海道には官有鐵道の東海道線があり又京濱電車なるものは神奈川迄並行して行つて居る。中山道には信越線があり奥羽街道には總武線。甲州街道には中央線が通ひ、(此が途中中野迄電車を併用して居る)厚木街道には玉川電車が途中迄行つて居る。其他委しくは別圖に示したが大抵舊交通線に從つて居る。此外電車としては、江島電氣鐵道、川越電氣鐵道などもあるが何れも舊交通線によつたものである。中に從來の交通線に直角をなして居るものが稀にある。即東京の周りを廻る山手線の鐵道の如きこれである。斯の如きものは歐米の大都會何れもこれを持つて居る、(ロンドン、パリー、ベルリンの如きみな然り)

又河は交通線として利用せられて居る。久慈川、那珂川、利根川、江戸川、中川、隅田川、多麻川の如き船を浮べて旅客又は荷物などを運んで居る。其他利根川の運河(見沼用水、葛西用水は灌漑用であるが小名木川、船堀川等は舟楫に便して居る)も其水路を補うて居る。霞浦、北浦の如き

も亦船を浮べて交通に便してゐる。

以上交通線路の大體を陳べたが其各自にいつて見るにこれを其發達上四の種類に分ける事が出來る。即

一、海岸に沿うて發達したもの

東海道筋、千葉街道、大原から銚子へ行く鐵道の如き。

二、山地に並行して居るもの

水戸から小山、桐生、伊勢崎などを通つて高崎に行つて居る鐵道の如き。即阿武隈山系、足尾山塊、關東山脈等によつて作られて居る山地に並行してゐる。千葉から出て大原に行つて居る房總鐵道も房總半島の山地によつて居るものである。

三、河に沿ふもの及河

河自身が一の交通線であることは前述の如くであるが又陸路の交通線も河に沿うて發達して居る。中山道は隅田川の岸に沿うて北進し、また淺草から伊勢崎に達して居る東武鐵道も大體中川江戸川等に沿うてゐる。

四、地方と地方とを連ねたために平野を縱横斷せるもの

濱街道の初めの部分、甲州街道、大山街道の如きこれである。

又此等の諸線に並行する線があつて益々複雜になつてゐる。而し大體は東京が中心になつて其から射出狀に四方に向つて出て居る。そして處々にこの各線を連ねる線があり恰度其形が蜘蛛の巢の樣に見える。

これら交通線と都會との關係を一言すれば都會は多く交通線に沿うて發達して居り其交る點に大都會を生じて居る。即神奈川、小山、高崎、久喜、我孫子、關宿（水路利根川、江戸川の分岐點）の如き。悉くを集めた東京は勿論のことである。

而し又倒まに都會によつて交通線を生じたものもある。水戸、宇都宮、古河、關宿、佐倉、土浦、結城、壬生、川越、忍、岩槻は主として要害の地であるとか又交通の要路に當るとかで城市とされたものであるが又其處に城があり城下となつたために交通線を生じたといふ事もある。川越の川越街道、岩槻の岩槻街道の如き其適例である。

又產業の盛大な土地があれは自然他との交通を頻繁ならしめて交通線の發達を促す。青梅に青梅鐵道を作り（青梅は產業が大して盛ではないが平野と山地との間にあつて兩方からの物產の集散を司つて居る）銚子の總武鐵道を作り、行德は其昔江戸との交通のため行德道なるものを作り小名木川、船堀川等の運河を開鑿するに至つた。

神社佛閣の所在地なるによつて交通線を作り出したものもある。成田不動尊へ參拜のため成田鐵

道を作り大山石尊大權現參詣に便するために大山街道が作られて居る。日光の東照宮へと宇都宮から日光鐵道がある。

これら都府の形をいへば交通線に沿うて發達するから自然細長くて街道の方向に走つて居る。而し交通線の交叉する處では兩方の交通線に沿うて發達するからこゝに初めて方形、多角形などになつて裏町を生ずる。東京の近所で其例を擧げれば大森(舊き町の方)は東海道線に從うて居る丈で從つて細長い一筋町である、だけれど八王子に行けば甲州街道と神奈川に行く道とに沿うて居るから格好が違ふ。單に細長い丈でなく巾が廣くなつて居る。而して何れも交通線に沿うて居るといふ事には少しも變りはない。

凡て關東の都府は一般によく平野に分布して居る。これは交通線が幾筋も自由自在に走つて居るためである。そして其交通線なるものは蜘蛛巢狀をなして東京を中心として存在して居るのである。

◉俳諧につきて

文科三年　初鹿野　とみ
尾臺　はる
岡田　いし

こゝに掲げてある通り私は俳諧についてお話致します、元來俳諧はなかなか六ヶ敷いものでとても私どもには解されないのですが近來俳諧は隨分歌はれて教科書などにものせてあるにもかゝはらず俳諧がどんな歴史をもつて今のものになつたかといふ事さへ知らぬやうでは如何かと存じまして少し調べた次第であります、併し短時間ではあり又知識のない者の申上げる事で御座いますからほんの上つらを通るばかりだらうと存じますが調べた事だけ其まま申上げます。

俳諧といふ文字は既に古今集に用ひられて居るので御座いまして此時は只滑稽な和歌の稱呼で御座いました、そして近古以來連歌が流行致しましたのでその滑稽的のものを俳諧の連歌といひ約して俳諧とも申しましたが只連歌師が時にふれて戯れに作つて見る位の事でした、足利時代の末頃通俗文藝が流行しまして狂歌狂言の樣な者が流行しました時俳諧も亦同時代の産物として起つたもので御座います。荒木田守武の「守武千句」山崎宗鑑の「犬筑波」の樣なものも此時現はれたのであります、併し畢竟堂上風の和歌や緣語を俗語になほしたり漢語を入れたりするだけで特別な法則は御座いませんでした宗鑑の句に次のがあります。